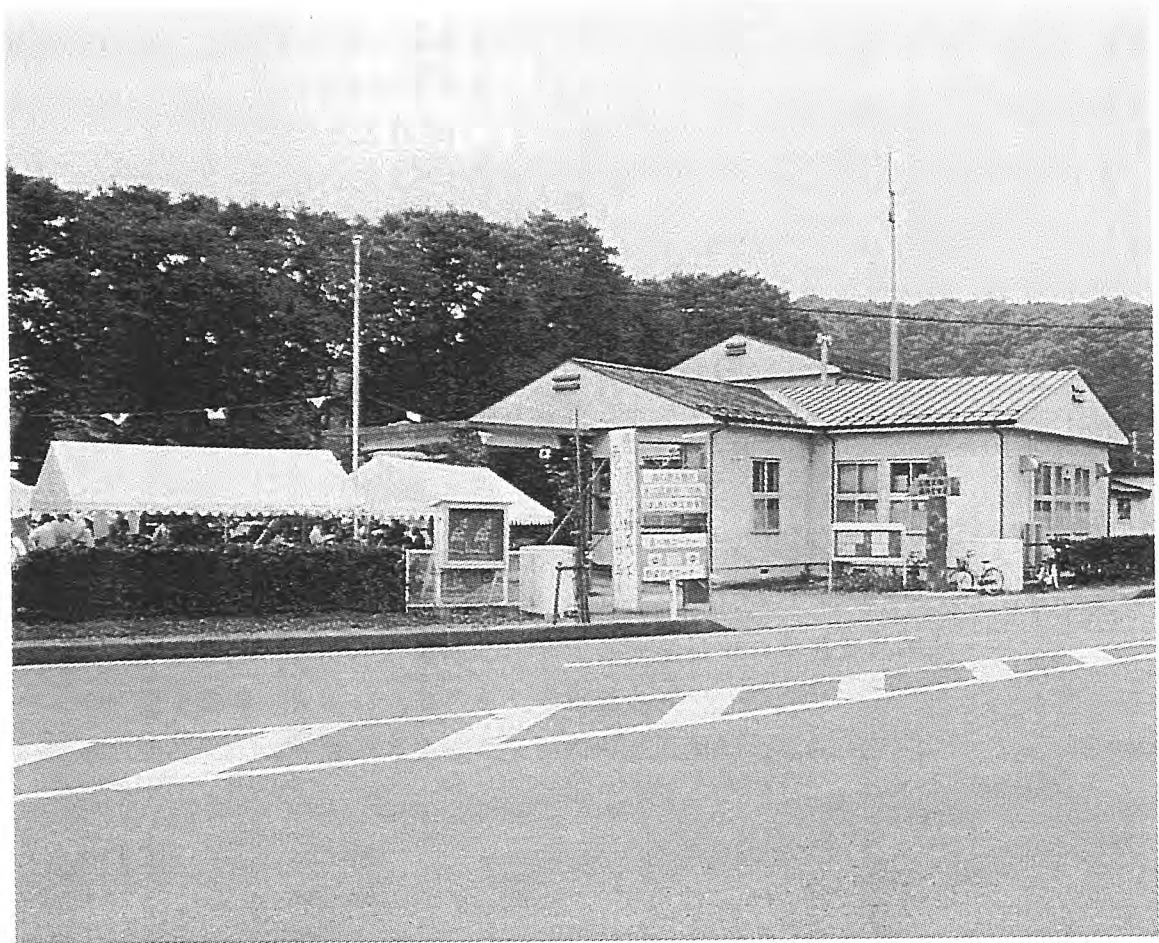


効果的な情報発信をめざせ 森林ふれあい体験イベント開催結果から

三陸北部森林管理署

釜津田森林事務所森林官
業務課経営係

○田口 暁史
小畑 克祥



1 課題を取り上げた背景

国有林の抜本改革については、その管理経営を公益的機能重視に転換することを基本としつつ、平成15年度末までに集中的に取り組んでいくこととされている。

いわゆる抜本改革では、森林のふれあいを通じて豊かな国民生活を実現することとして「森林の豊かさを理解したい」「緑にふれあいたい」「森づくりに参加したい」などの国民の要請に応じていくことも明記されている。

三陸北部森林管理署としても、こうした管内地域住民の方々に対する情報発信、情報交換の場の提供など「開かれた国有林」を推進するため、「森林ふれあい体験イベント」を開催し、森林・林業に対する相互理解を深める目的をもって開催したものであります。

三陸北部森林管理署は、平成13年8月1日、国有林野の抜本改革により、暫定組織であった旧岩泉事務所を統合し、1市3町2村を管轄区域とする4万1千ヘクタールの国有林を管理経営して現在に至っている。

最近の国民的要請は、「物の豊かさ」から「心の豊かさ」を求める人々が増大し、学校週5日制の実施などを機に緑、環境など、自然とのふれあいを志向する傾向が多くなってきております。

このような状況を踏まえ、これまで森林管理署等が地域に向けた情報発信は、植樹祭、育樹祭、体験林業など森林をフィールドとした、山仕事の催しが多く開催されてきている。

したがって、地域住民の反応は「森林管理署は木を切って植えている役所」「昔から営林署の仕事は余り知らない」「役所が隣りにあっても、どんな仕事をしているか分からない」などの声が聞かれました。

こうした状況を踏まえ、「平成14年度三陸北部森林管理署の重点目標」として、一つは、広域化した管内関係地域住民等への各種積極PR、二つは、公益的機能発揮に向けた新たな制度・森林整備等を推進しよう、との目標を掲げ、その具体的実施に向けた第一弾として、不特定多数の地域住民に対し、これまでの前例・慣行にとらわれない、開かれた国有林アピールのため、普段着での総合イベントを開催することとしたものであります。

1 PR・集客の手法としては、

- (1) 一般の人々の望んでいるものを
- (2) できるだけ多くのメニューで
- (3) 参加しやすい場所に設定し
- (4) あらゆるサービスを提供し
- (5) あらゆる集客の階層を想定し
- (6) 印象に残るもの

を基本として考察しました。

2 実行前の考察

前述のように、地域住民等からは森林管理署の業務がよく理解されていないことから、不特定多数の方々に国有林の現状を知らせ、森林の果たす役割への理解、森の恵み展示・体験、体験林業等を基本項目として、地域住民の目線で、わかりやすく、受け入れやすいイベントとして総合メニューを盛り込み、取り組んだものであります。

また、実行前の考察として、開催品目をどうするか、職員の協力は得られるのか、開催時期をどうするか、任務分担をどうするか、民間活力は取り入れるのか、多くの人を集めるための手法など、整理すべき事項が山積していました。

3 イベント実行結果

まず、開催時期を日曜日の10月6日に設定し、庁舎周辺のケヤキ並木を会場に決定し、開催趣旨、職員の任務分担表など具体的実施内容（案）を全職員に示し、協力と意見を求めました。

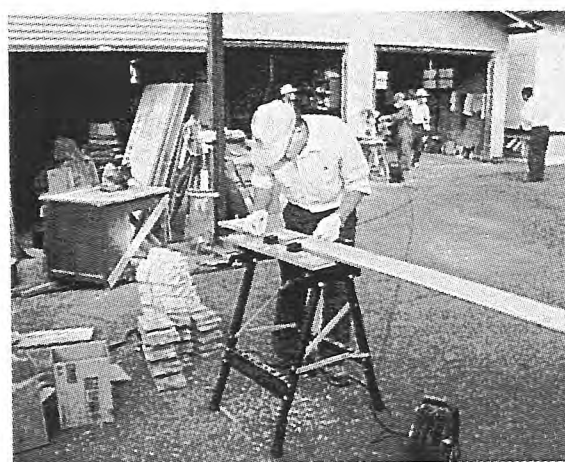
幸いにして、当日の振り替え休日での対応、事前準備等への対応など一定の理解を得ることが出来ました。

統合後の森林管理署としては、初めての総合イベントだけに、多大なエネルギーを要すること、果たしてどれだけの人々が集まるのか、半信半疑の準備が始まりました。

準備段階の1つとして、なんのために開催するのか職員に対して説明いたしました。



写真は、開催趣旨・任務分担等についての職員説明資料であります。



準備段階2（写真は木工品製作に汗する職員の様子です。）

準備段階の3つ目として、人を集めるためのポイントを考えました。

メインタイトルについては「森林ふれあい体験イベント」とし、サブタイトルについては、「みどり・ふれあい・In サンデー」とネーミングするとともに、不特定多数の市民等をターゲットに、新聞チラシ折り込み5000枚を配布いたしました。

「写真は新聞折り込みのチラシであります。」



準備段階の4つ目として、催し物について考えました。

催し物は次の7品目とし、多くの階層をターゲットに集客を試みました。

- 1つは 木工品展示・即売コーナー
- 2つは 森の恵み体験コーナー
- 3つは 親子ふれあい木工教室
- 4つは 写生大会
- 5つは 森林教室
- 6つは 木の種類当てクイズ
- 7つは 与作選手権 とし、

さらに、抽選会を実施して抽選により50名様には木工品をプレゼントすることといたしました。

準備段階の5つ目としては、外部団体等との連携について考えました。

今回のイベント企画に当たっては、多くの団体等が協賛し準備段階から自主展示等への参加団体が相次ぎ、国生協、漁協、木工所、産業開発公社など多くの地域の方々と一緒にやって取り組んだことに大きな意義があると考えております。

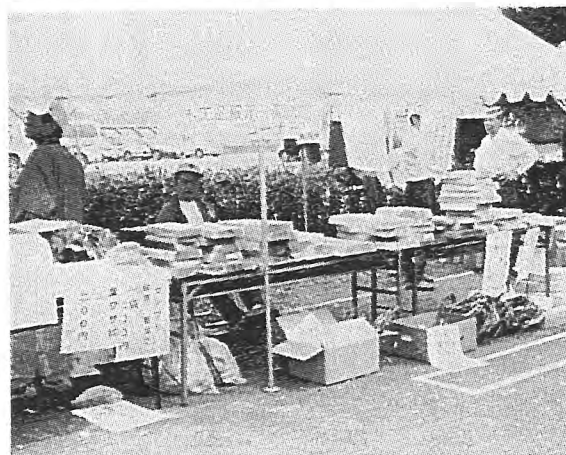
準備段階の6つ目としては、メディアのフル活用であります。

報道関係（テレビ・新聞社）10社に対する事前の投げ込みが功を奏し、この時期、イベントラッシュにもかかわらず、延べ500人の入場者で賑わいを見せました。

4 以下、写真によりイベント開催状況を紹介致します。

(写真は来賓・招待者のみなさんです。)

(写真は、木工品展示・即売コーナーです。)

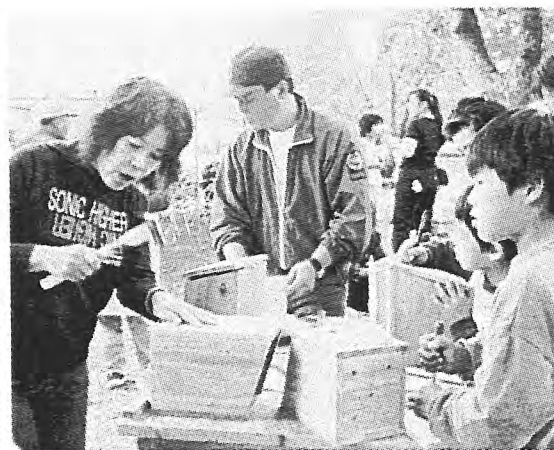
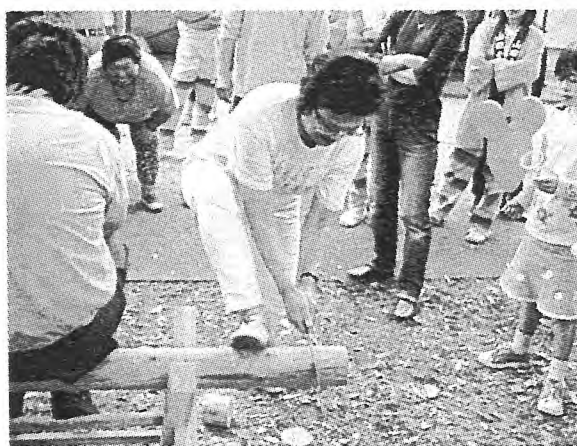


(写真は、木工品展示・森の恵み展示体験コーナーです。)



(写真は、テーブル用荒板販売コーナーです。)

(写真は、与作選手権・丸太伐り競争です。)



(写真は、親子ふれあい木工教室です。)

(写真は、山田町有志による虎舞の応援メッセージであります。)



(写真は、重茂漁協による鮭汁無料振舞いです。)

(写真は、親子木工教室・巣箱づくりに奮闘する市民の方々であります。)



(写真は、岩泉町、田野畑村産業開発公社の出店状況であります。)

(写真は、地元国生協のみなさんによるほたて焼きコーナーであります。)



(これは、クマの毛皮で変装した私の写真であります。)



(写真は、会場内で人気があったクマと遊ぶ子ども達の様子であります。)

(写真は、庁舎玄関前に建てられたメイン看板です。)



(写真は、熱心に見入る市民の様子であります。)

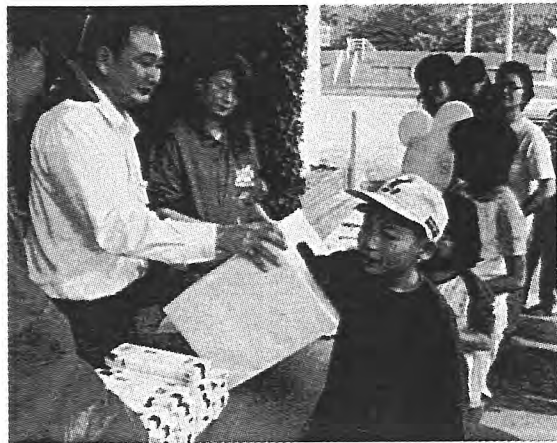


(写真は、ブランコで遊ぶ子ども達の様子です。)

(写真は、なめこほだ木を買って、勇んで帰る市民の方々の様子です。)



(写真は、抽選会に群がる市民の様子です。)



(写真は、後かたづけ終了後の反省会の様子です。)

反省会は、薄暮の中で延々と続きました。



(写真は、ハシゴを使つての森林教室・久慈支署 中野森林インストラクターであります。)



今回のイベントは、多くの団体が協賛し、準備の段階から自主展示への参加団体が相次ぎました。

多くの地域の方々と一緒に取り組んだことに大きな意義があると考えている。

市民の関心は、きのこ、山ぶどうなどの森の恵み、木工品としてのまな板など、身近かな山の幸に人気があった。

植樹祭・育樹祭等の専門的分野でのイベントは、開催場所、限られた作業種、限られた招待者等で構成されており、一般の方々による普段着での参加には限界があるが、今回のイベントについては、不特定多数の住民に対して、開催場所を庁舎周辺とし、大人から子どもまでを対象として、多彩な催しを背景に攻めの姿勢で、総合イベントに取り組んだ結果、多くの成果を得て終了することができました。

準備のための支出経費については、従来から署等で計画している育樹祭等の経費に比して、ほぼ変わらない結果となっていること。

また、木工品等の売り上げ収入にも大きく貢献することができました。

さらに、通常業務の傍ら約1ヶ月半に及ぶ木工品製作と振り替え休日に対応した職員の一体感は、地域に対し開かれた国有林を着実に訴えることができたものと考えております。

5 考 察

国有林は今、抜本改革のさ中であって、森林管理署が真に地域住民の方々から理解と協力を得ながら、地域振興に向けた一層の連携を強化していくためには、効果的な情報発信こそが大事であると考えます。

今回開催した「森林ふれあい体験イベント」は、地域の森林管理署としてその存在感を示す絶好の機会となり、参加された多くの方々から確実に反響があり手応えを感じました。

今後とも、地域の特性を活かし、地域住民が望んでいるものを、わかりやすく、柔軟な発想で、真に開かれた国有林をめざし取り組んでいきたいと考えております。